#### 研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 5 年 6 月 1 9 日現在

機関番号: 17102

研究種目: 基盤研究(B)(一般)

研究期間: 2018~2022

課題番号: 18H00667

研究課題名(和文)ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト・モダリティ・エビデンシャリティの対照研究

研究課題名(英文)Contrastive Studies on the Tense, Aspect, Modality and Evidentiality in Romance Languages

研究代表者

山村 ひろみ (Yamamura, Hiromi)

九州大学・言語文化研究院・教授

研究者番号:90281188

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 11,360,000円

研究成果の概要(和文):本研究はロマンス諸語の動詞体系を特にモダリティとエビデンシャリティの観点から再分析するために、仏西伊伯葡羅英語の未来・前未来・条件法現在・条件法過去の諸用法に焦点を当て、それらの諸の「対照表」を作成した。この「対照表」を基に検討した結果、対象とする6つのロマンス諸語の未来・前未来は「事態を発話時以降に定位する」という時間的機能を共有するのに対し、条件法現在・条件法過去は、6つのロマンス諸語すべてに共通の機能を特定するのは難しかった。しかし、それらの条件法現在のモーダル用法は現在の事態に言及し、条件法過去のモーダル用法は過去の事態に言及するという特徴を共有するということはは現在の事態に言及し、条件法過去のモーダル用法は過去の事態に言及するという特徴を共有するということは 確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義本研究は従来テンス・アスペクトの観点から分析されることが一般的だったロマンス諸語の動詞体系をモダリティ、エビデンシャリティの観点から分析してみることを目指した。まず対象とする7つのロマンス諸語(仏西伊伯葡羅語)と英語の未来・前未来・条件法現在・条件法過去に焦点をあて、当該言語の当該形式の諸用法を他の言語のそれらと比較した「対照表」を作成した。次に、その「対照表」を基にロマンス諸語に見られる未来・前未来・条件法現在・条件法過去の機能の類似点と相違点をまとめた。このように6つのロマンス諸語の当該形式の機能をモダリティ、エビデンシャリティーの観点から明らかにした研究は国内外にもない点は特筆に値する。

研究成果の概要(英文):We made a comparative table of each of the future, the future perfect, the conditional present and the conditional past to analyse the verbal systems of the Romance languages from the point of "Modality" and "Evidentiality", focusing on the usages of above-mentioned four verbal forms of French, Spanish, Italian, Brazilian Portuguese, Portuguese Portuguese, Romanian and English. Based on the scrutiny study on the comparative tables, we verified that the future and the future perfect of the six Romance languages in question share the temporal function which localizes a situation in a time posterior to the speech time, whereas it was very difficult to specify some functions that are commun to the conditional present and the conditional past of the said languages. However, we found that the conditional present forms of the languages share a characteristics that their modal usages refer to the present situation and their conditional past forms refer to the past situation.

研究分野: 言語学、スペイン語学

キーワード: ロマンス諸語 テンス アスペクト モダリティ エビデンシャリティ 対照言語学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

#### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、それに先立つ基盤研究(C)「現代ロマンス諸語におけるテンス・アスペクト体系の対照研究」(課題番号 15K02482)の発展的展開であるが、そこでは Agatha Christie の The Thirteen Problems を基に英語とフランス語、スペイン語、イタリア語、ブラジルポルトガル語、ポルトガルポルトガル語、ルーマニア語のパラレルコーパスが作成され、特に、6 つのロマンス諸語の「大過去」の振る舞いを基に、それらの動詞体系の類似点と相違点が考察された。その結果、ロマンス諸語の動詞体系の十全な解明には、テンス・アスペクトの観点からの分析だけでは不十分で、モダリティ・エビデンシャリティといった観点からの考察も必要であることが明らかになった。そこで本研究は、ロマンス諸語の動詞体系をテンス・アスペクトに加え、モダリティ・エビデンシャリティという観点から再分析することにした。

#### 2. 研究の目的

上述のモダリティとは、発話の命題内容に対する話し手の態度を表す言語カテゴリーで、ロマンス諸語においては「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」といった時制形式に関係すると言われる (Squartini 2001,2008)。一方、近年のロマンス語学では、このモダリティがエビデンシャリティと共に論じられることが多い。エビデンシャリティとは、発話内容の情報源が直接的か間接的か、間接的な場合、それは話し手の推論によるものか、伝聞によるものかといったことを表示する言語カテゴリーを指す (Willett 1988, Frawley 1992)が、ロマンス諸語ではこのエビデンシャリティもその「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」に関与すると主張されている。そこで本研究は、フランス語、スペイン語、イタリア語、ブラジルポルトガル語、ポルトガルポルトガル語、ルーマニア語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」に焦点をあて、ロマンス諸語の動詞体系をテンス・アスペクト・モダリティ・エビデンシャリティの観点から再分析し、それらの間に見られる類似点と相違点を明らかにすることをその目的とした。

#### 3. 研究の方法

上述の目的を達成するために、本研究は、まず、①ロマンス諸語および英語の当該形式の用法を規範文法において確認し、②当該言語の当該形式の諸用法を他の言語の当該形式の諸用法と比較対照し、③対象とする 7 言語(フランス語、スペイン語、イタリア語、ブラジルポルトガル語、ポルトガルポルトガル語、ルーマニア語、英語)における「未来・前未来・条件法現在・条件法過去の諸用法の対照表」を作成、④「対照表」を基に、ロマンス諸語に見られる「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の諸用法と機能の類似点と相違点を整理した。そして、ロマンス諸語における動詞体系をテンス・アスペクト・モダリティ・エビデンシャリティの観点から対照的に考察した。

#### 4. 研究成果

(1) 統一テーマ:ロマンス諸語と英語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」について本研究は、まず、研究課題の統一テーマを「ロマンス諸語と英語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の分析に定めた。その理由は、最近の研究によれば(Dendale (2001, 2010); Escandell-Vidal (2010); Squartini (2001, 2004, 2012))、ロマンス諸語においては、とりわけ、これらの時制形式がそのモダリティ、エビデンシャリティに関わると指摘されているからである。また、本研究に英語を加えたのは、ロマンス諸語間に見られる当該時制形式の振る舞いを系統の異なる言語である英語のそれと比較対照することにより、モダリティ、エビデンシャリティにおけるその特徴をより明確に示すことができると考えたからである。この課題に取り組むために本研究が実施したことは次のとおりである。

まず、各語における「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」のパラダイムを示した。次に、各語の規範文法書における「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の記述を示した。その後、ロマンス諸語と英語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」を、対象となる 7 言語のうちのどれかの当該形式に確認された用法が他の言語にも同様に確認されるかを示した「対照表」を作成した。そして、最後にこの「対照表」に基づき、対象とした 6 つのロマンス諸語(フランス語、スペイン語、イタリア語、ブラジル・ポルトガルポルトガル語、ルーマニア語)の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の機能の類似点と相違点を実証的に示した。

### (2)「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の諸用法の対照表

本研究が作成した「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の諸用法を対象とする 7 言語に おいて比較した対照表を以下に示す。

表1:「未来」の諸用法の有無 (当該用法が存在する場合は✔の印がある)

言語用法	仏	西	伊	伯	葡	羅	英
①発話時以降に生起する事態	✓	~	✓	✓	<b>√</b>	✓	~
②発話時における発話者の意思	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
③命令的な意味	✓	~	✓	✓	<b>√</b>	<b>√</b>	✓
④脅迫	✓	✓	✓	✓	<b>√</b>	✓	✓
⑤回想的未来	✓		✓	✓	<b>√</b>		✓
⑥現在形の語調緩和	✓	~	✓	✓	✓	✓	
⑦驚き・憤慨・反語		✓		✓	<b>√</b>		
⑧現在の推量	✓	~	✓	✓	✓		✓
⑨現在の譲歩		✓	✓			✓	
(i)条件節に出現する			✓			✓	~
(ii) even if に出現する	✓		✓			✓	
(iii) when 節に出現する	<b>✓</b>		<b>√</b>			<b>√</b>	
(iv) parataxis 節に出現する	<b>√</b>					✓	
迂言形式がある	<b>√</b>	<b>√</b>		<b>√</b>	<b>√</b>		<b>√</b>

## 表 2:「前未来」の諸用法の有無 (当該用法が存在する場合は✔の印がある)

言語用法	仏	西	伊	伯	葡	羅	英
①発話時より後の時点よりも 前に起こった未来の事態	<b>√</b>	✓	<b>√</b>	<b>√</b>	<b>√</b>	<b>√</b>	<b>√</b>
②発話時より前の事態につい ての推量	<b>√</b>	✓	<b>√</b>	<b>√</b>	✓	✓	<b>&gt;</b>
③発話時より前の事態につい ての総括	<b>√</b>		<b>√</b>				
(i) 条件節で出現する			✓			<b>√</b>	
(ii) when 節で出現する	<b>√</b>		✓			<b>√</b>	

# 表 3:「条件法現在」の諸用法の有無 (当該用法が存在する場合は✔の印がある)

X C. MITIADILL	- ны/14 1	. , , , , , ,	( - 15 () 13 12-1				- /
言語用法	仏	西	伊	伯	葡	羅	英
①過去から見た未来の事態	<b>√</b>	✓		✓	<b>√</b>		<b>✓</b>
②文学的な語りの中で、これか	<b>V</b>	V		./	./		./
ら必然的に起こる未来の事態	•	<b>&gt;</b>		V	•		V
③反事実用法	<b>✓</b>	>	<b>✓</b>	<b>✓</b>	>	>	>
④驚き・憤慨・反語用法	<b>✓</b>	>	<b>✓</b>	<b>✓</b>	>	>	>
⑤語調緩和・婉曲の表示	<b>✓</b>	>	<b>✓</b>	<b>✓</b>	>	>	>
⑥遊戯の配役・夢想の表示	<b>✓</b>			✓	✓	✓	
⑦過去の事態の推量の表示		<b>√</b>		<b>√</b>	✓		

⑧過去の譲歩の表示		<b>✓</b>				
⑨文の真実性についての責任	✓	✓	. /	 . /	. /	
回避(伝聞)の表示	V	V		 <b>V</b>	<b>V</b>	
(i)条件節に出現する			✓		✓	✓
(ii) when 節に出現する	<b>√</b>		<b>✓</b>		<b>✓</b>	
(iii) parataxis 節に出現する	<b>✓</b>				<b>✓</b>	
(a)条件願望文					<b>✓</b>	
(b)比較(比喩的)					✓	
(c)罵詈雑言					<b>√</b>	

表 4:「条件法過去」の諸用法の有無 (当該用法が存在する場合は✔の印がある)

言語用法	仏	西	伊	伯	葡	羅	英
①過去のある時点より後の時 点より前に起こる事態	<b>√</b>	✓		<b>√</b>	<b>√</b>	✓	
②反事実用法	<b>√</b>	<b>√</b>	✓	<b>√</b>	<b>√</b>	<b>√</b>	<b>√</b>
③語調緩和・婉曲・遺憾	✓	✓	✓		✓	✓	
④驚き・憤慨・反語用法	✓		✓		✓	✓	
⑤過去の事態の推量の表示	<b>√</b>	✓		✓	✓	✓	
⑥文の真実性についての責任 回避(伝聞)の表示	<b>√</b>	✓	<b>&gt;</b>	<b>√</b>	<b>√</b>	✓	
⑦過去から見た未来の事態			<b>√</b>				
8文学的な語りの中でこれか ら必然的に起こる事態			>				
(i)条件節に出現する			>			<b>✓</b>	
(ii) when 節に出現する	<b>✓</b>		<b>✓</b>			✓	

(3) ロマンス諸語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の「対照表」から見た各形式の機能上の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の「対照表」から分かる各形式の機能について述べる。まず、対象とするロマンス諸語の「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」は大きく「未来・前未来」と「条件法現在・条件法過去」に分けることができる。この分類は単に語形成のあり方に従ったものではなく、先に見た各形式の諸用法に基づく各形式の機能的違いに拠るものでもある。

「未来」については、対象とする6つのロマンス諸語および英語のすべての言語において「発話時以降に生起する事態を表示する」ということが確認された。また、同様に、すべての言語において、この発話時以降に生起する事態の主語の人称、また、その事態の内容などに従って、「発話者の発話時における意思」「命令的な意味」「脅迫的な意味」が表されることも確認された。これは、本研究が対象とする7言語においては、「未来」が「事態を発話時以降に定位する」という時間的機能を有していることを示すものである。一方、「未来」が発話時と同時関係にある事態に言及するそのモーダル用法については、「語調緩和」については、英語以外のロマンス諸語の「未来」には共通に確認されたが、「現在の推量」についてはロマンス諸語においても確認される言語とそうでない言語があり、「現在の譲歩」についてはスペイン語、イタリア語、ルーマニア語に見られるだけだった。このことから、ロマンス諸語の「未来」をモーダルの観点から統一的にまとめることは難しいと言える。一方、「前未来」の機能については、対象7言語すべてが示す「発話時より後の時点よりも前に起こった未来の事態の表示」「発話時より前の事態についての推量の表示」は、「未来」の「発話時以降に生起する事態の表示」「現在の推量の表示」に並行したものと考えることができる。

次に、「条件法現在・条件法過去」については、「未来・前未来」に見られたような6つのロマンス諸語に共通の機能というものを設定することは難しかった。「条件法現在・条件法過去」の語形成については、「未来・前未来」の語形成を過去にシフトしたものと見なせる言語とそのように見なせない言語があるのだが、それが当該形式の機能の画定にまで影響を与えているからである。

まず、「条件法現在・条件法過去」の形式が「未来・前未来」の形式を過去にシフトしたもの と見なせる言語の当該形式の機能については、「未来・前未来」の機能を過去にシフトしたもの と見なせる場合とそうでない場合があった。そのような言語の「条件法現在・条件法過去」の時 間的用法は基本的に「未来・前未来」のそれと並行関係にあったが、そのモーダル用法について は、必ずしも「未来・前未来」のそれと並行関係にあるとは言えなかったからである。例えば「条 件法現在」を見ると、スペイン語、ポルトガル語では、「未来」が「現在の推量」を表示するの と同様に、「条件法現在」が「過去の事態の推量」を表示するが、フランス語では、「未来」は「現 在の推量」を表示しても、その「条件法現在」は「過去の事態の推量」を表示することはないの である。一方、イタリア語のように、「条件法現在・条件法過去」の形式が「未来・前未来」の 形式を過去にシフトしたものではない場合、その時間的用法は「未来・前未来」のそれと並行し たものにはならない。しかし、そのモーダル用法を見ると、「条件法現在」は発話時と同時関係 にある事態に言及し、「条件法過去」は過去の事態に言及するといったように、「条件法現在・条 件法過去 | の形式が「未来・前未来」の形式を過去にシフトしたものである言語と同じ様相を示 す。このことを踏まえ、対象とする6つのロマンス諸語すべてに共通の「条件法現在」「条件法 過去」の特徴を示すならば、「条件法現在」のモーダル用法は発話時と同時関係にある事態に言 及でき、「条件法過去」のモーダル用法は過去の事態に言及することができる、ということにな る。以上のことをまとめると、本研究が対象とする6つのロマンス諸語は、「未来・前未来」に おいてはその時間的機能を共有し、「条件法現在・条件法過去」においてはそのモーダル的機能 を共有するということになる。

最後に、「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の機能をその統語的出現環境という観点から見ると、当該形式の時間的用法、モーダル用法のあり方とは別に、常に一定であった。すなわち、条件節、when 節で「未来」が出現できれば、「前未来・条件法現在・条件法過去」のいずれも同様に条件節、when 節で出現できるのである。また、この統語的環境における「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」の振る舞いは、それらの形式とロマンス諸語それぞれにおける接続法の関係を示すことにもなった。というのも、とりわけ、when 節で「未来・前未来・条件法現在・条件法過去」を容認しない言語では、代わりに接続法が使われていることが確認されたからである。

## 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件(うち査読付論文 16件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 14件)

CARROLLINA, HELLI ( ) DEMILITING COLL ) DEMINISTRATION COLL COLL COLL COLL COLL COLL COLL CO	
1 . 著者名   Hiromi YAMAMURA	4.巻   1
2.論文標題 El pluscuamperfecto del espanol en comparacion con el plus-que-parfait del frances en la	5 . 発行年 2020年
narracion 3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Garcia Perez, Rafael/Morimoto, Yuko (eds.) De la oracion al discurso Estudios en espanol y estudios contrastivos, Peter Lang	107-131
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1.著者名	4 . 巻
Hiromi YAMAMURA	46
2 - 5-A	F 36/-/-
2.論文標題 Los usos del futuro en espanol y sus funciones - en busca de la funcion unitaria del futuro en espanol -	5.発行年 2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
言語文化論究(九州大学)	17-31
<u> </u>	<u>│</u> │ 査読の有無
10.15017/4377714	有
10.130177437714	H H
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名	4 . 巻
	- 4 . 巻 1
1 . 著者名	1
1.著者名 渡邊淳也	
1 . 著者名 渡邊淳也 2 . 論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト	5.発行年 2021年
1.著者名 渡邊淳也 2.論文標題	5.発行年
1 . 著者名 渡邊淳也 2 . 論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト	5.発行年 2021年
1.著者名         渡邊淳也         2.論文標題         フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト         3.雑誌名	5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
1 . 著者名 渡邊淳也  2 . 論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト  3 . 雑誌名 益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房	1 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 261-289
1 . 著者名 渡邊淳也  2 . 論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト  3 . 雑誌名 益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房	1 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 261-289 査読の有無
1 . 著者名 渡邊淳也  2 . 論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト  3 . 雑誌名 益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房	1 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 261-289
1 . 著者名 渡邊淳也  2 . 論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト  3 . 雑誌名 益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房	1 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 261-289 査読の有無
1 . 著者名     渡邊淳也      2 . 論文標題     フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト      3 . 雑誌名	1 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 261-289 査読の有無
1 . 著者名     渡邊淳也      2 . 論文標題     フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト      3 . 雑誌名	1 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 261-289 査読の有無
1 . 著者名     渡邊淳也      2 . 論文標題     フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト      3 . 雑誌名	1 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 261-289 査読の有無
<ul> <li>1 . 著者名 渡邊淳也</li> <li>2 . 論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト</li> <li>3 . 雑誌名 益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房</li> <li>掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし</li> <li>オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難</li> </ul>	1 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 261-289 査読の有無 有 国際共著
1.著者名       渡邊淳也         2.論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト         3.雑誌名 益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし         オープンアクセス	1 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 261-289 査読の有無 有 国際共著
1. 著者名         渡邊淳也         2. 論文標題         フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト         3. 雑誌名         益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし         オープンアクセス         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1. 著者名 Jun-ya Watanabe         2. 論文標題	1 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 261-289 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 220 5.発行年
1.著者名       渡邊淳也         2.論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト         3.雑誌名 益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし         オープンアクセス	1 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 261-289 査読の有無 有 国際共著
1 . 著者名 液邊淳也2 . 論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト3 . 雑誌名 益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なしオープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難1 . 著者名 Jun-ya Watanabe2 . 論文標題 Etude contrastive de quelques connecteurs formes sur le verbe dire en francais et en japonais	1 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 261-289 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 220 5 . 発行年 2020年
1 . 著者名 渡邊淳也     2 . 論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト     3 . 雑誌名 益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房     掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし     オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難      1 . 著者名 Jun-ya Watanabe     2 . 論文標題 Etude contrastive de quelques connecteurs formes sur le verbe dire en francais et en japonais     3 . 雑誌名	1 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 261-289 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 220 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁
1 . 著者名 液邊淳也2 . 論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト3 . 雑誌名 益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なしオープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難1 . 著者名 Jun-ya Watanabe2 . 論文標題 Etude contrastive de quelques connecteurs formes sur le verbe dire en francais et en japonais	1 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 261-289 査読の有無 有 国際共著 - 4 . 巻 220 5 . 発行年 2020年
1 . 著者名 渡邊淳也     2 . 論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト     3 . 雑誌名 益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房     掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし     オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難      1 . 著者名 Jun-ya Watanabe     2 . 論文標題 Etude contrastive de quelques connecteurs formes sur le verbe dire en francais et en japonais     3 . 雑誌名	1 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 261-289 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 220 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁
1 . 著者名       渡邊淳也         2 . 論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト         3 . 雑誌名 益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし         オープンアクセス         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 Jun-ya Watanabe         2 . 論文標題 Etude contrastive de quelques connecteurs formes sur le verbe dire en francais et en japonais         3 . 雑誌名 Langages	1 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 261-289 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 220 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 21-42
ま著者名 渡邊淳也     え : 論文標題     フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト     ま : 強誌名	1 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 261-289 査読の有無 国際共著 4 . 巻 220 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 21 - 42
1 . 著者名       渡邊淳也         2 . 論文標題 フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト         3 . 雑誌名 益岡隆志監修『[研究プロジェクト] 時間と言語』ひつじ書房         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし         オープンアクセス         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難         1 . 著者名 Jun-ya Watanabe         2 . 論文標題 Etude contrastive de quelques connecteurs formes sur le verbe dire en francais et en japonais         3 . 雑誌名 Langages	1 5.発行年 2021年 6.最初と最後の頁 261-289 査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 220 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 21-42
ま著者名 渡邊淳也     え : 論文標題     フランス語半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト     ま : 強誌名	1 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 261-289 査読の有無 国際共著 4 . 巻 220 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 21 - 42

1.著者名	4.巻
渡邊淳也	27
2 . 論文標題	5 . 発行年
コルシカ語方言学の諸問題	
コルンガ語ガ言子の顔向越	2020年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
言語・情報・テクスト (東京大学)	117-130
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
10.15083/00080119	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1. 著者名	4 . 巻
渡邊淳也	1
<b>反发序也</b>	'
2 . 論文標題	5 . 発行年
認知モード、アフォーダンスとフランス語	2020年
	·
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
渡邊淳也・和田尚明編『TAMEに関する多言語研究と認知モード』TAME研究会	167 184
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
なし	無無
4 U	***
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
和田尚明	1
2 . 論文標題	5 . 発行年
2.mmスイテルタ2 日本語と英語の時制・アスペクト・モダリティならびにその関連現象 包括的時制解釈モデルによる分析	2020年
口本語と央語の時前・アスペクト・モダリティならいにての関連現象 巴鉛的時前解析モデルによる方例	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
渡邊淳也・和田尚明編『TAMEに関する多言語研究と認知モード』TAME研究会	1-57
	-
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
なし	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
和田尚明	1
2	5 . 発行年
2.論文標題	5 . 発行年 2021年
日英語の三人称小説における時制形式選択とその関連現象 - 言語使用の三層モデルとC-牽引に基づく分析 -	2021 <del>年</del>
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
・	231-260
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
	543 == (1) <b>(m</b> ++++
拘載mm又UDUI(デンタルオフシェクト誠別子) なし	有
なし	有
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	

1.著者名	4 . 巻
和田尚明	2
18-15-70	
2、 4公本 1番店	r 整仁左
2.論文標題	5 . 発行年
英語の「した」	2021年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
庵功雄・田川拓海 編『日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す 第2巻:「した」「している」の世	137-157
界』	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
40	净
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1 ***	4 <del>*</del>
1 . 著者名	4.巻
山村ひろみ	44
2.論文標題	5.発行年
スペイン語の「未来」と「過去未来」 - その機能的類似点と相違点について	2020年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
言語文化論究	11-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
40	Ħ
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
4 ****	4 <del>Y</del>
1.著者名	4 . 巻
渡邊淳也	26
2 . 論文標題	5.発行年
·····	
フランス語の単純未来形と条件法 叙法的対立とその源泉	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
言語・情報・テクスト	
ロロ・旧代・ノンヘド	63-78
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	無
<i>'</i> & ∪	<del>////</del>
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
	4 <del>4</del> 4
1 . 著者名	4.巻
渡邊淳也	34
2.論文標題	5 . 発行年
フランス語の条件法現在形・条件法過去形とロマンス諸語における対応形式の対照研究	2019年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
筑波大学フランス語・フランス文学論集	57-90
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
+ 1,7,7,4,7	<b>国際井芸</b>
オープンアクセス	国际共有
	国際共著
オープファクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国际共 <b>名</b> -

会本信告       43         2. 語文理題 NATOTOTESTATE (PRINCIPLE)       5. 発行年 2020年         2. 語文理題 NATOTOTOTESTATE (PRINCIPLE)       6. 最初と屋後の頁 39-61         掲載説文の001 (デジクルオブジェクト選別子) なし       直続の有無 第 7-ブンアクセス         1. 著書名 **ボバ・ルシーラ       4. 著 **ボバ・ルシーラ         2. 論文理題 日本の大学におけるボルトガル結教育 - 言語受権をどう扱うか・       5. 発行年 2019年         3. 樹誌名 博高館・多言語教育研究       6. 最初と最後の頁 44-38         1. 著書名 **ドルフンアクセス       2. 論文理題 大過去と「場」の共有         2. 論文理題 大過去と「場」の共有       2. 第2理題 大過去と「場」の共有         3. 粉誌名 中国天子短期大学研究紀要       5. 発行年 2019年         1. 著書名 岸彩子       2. 前文理題 大過去と「場」の共有         1. 著書名 片彩子       2. 新文理題 2. 前文理題 3. 粉誌名 4-7-ブンアクセス       国際共著 2. 前文理題 3. 粉誌名 4-1, 巻 第415         2. 前文理題 大過去と罪景即題 3. 粉誌名 中彩子       5. 景行年 2020年         3. 粉誌名 中彩子       4. 巻 **415         4. 巻 **15       第415         2. 前文理題 大過去を理景即題 4. 巻       5. 景行年 2020年         3. 静誌名 中彩子       5. 景行年 2020年         3. 静誌名 中彩子       5. 景行年 2020年         3. 静誌名 中彩子       6. 最初と置後の頁 1.16         4. 巻 春15       2. 自然の有無 所 月		
2. 論文標題 ルーマニが語文中で問題話法がもつ対応関係をもとに ス・世界できる大学研究記要 ・	1.著者名	4 . 巻
2. 論文標題 ルーマニが語文中で問題話法がもつ対応関係をもとに ス・世界できる大学研究記要 ・		
ルーマア諸氏対すら「総制の一致」のあり(有精)をむし(無標)について:アガサ・クリスティの原 文とルーマフア語版文中で同談話法がもつ対応関係をもとに       6 - 最初と配使の頁 39-61         3 . 和話名 東京音楽大学研究記要       5 - 最初と配使の頁 39-61         開歌論文の201(デジタルオブジェクト選別子)なし       1 - 日本のイデンアクセス         1 . 著名名 ギボ・ルシーラ       4 . 整 メラ クリウェスとしている(また、その予定である)         2 . 論文標題 日本の大学におけるボルトガル語教育・言語変様をどう扱うか・ 3 . 確認名 権意治・多言語教育研究 4 2019年 3 . 確認名 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 6 最初と歴域の頁 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 7 アクセスが困難 7 アク・アクセスではない、又はオープンアクセスが困難 8 2019年 9 2019年 1 . 著名名 洋彩子 2 . 論文標題 大造会と "場」の共有 3 . 確認名と "場」の共有 5 . 発行年 2019年 2019年 2019年 2019年 4	A THE	-
ルーマニ諸氏さける「錦崎の一致」のあり【名標)をむし【無視】について:アガサ・クリスティの原文とルーマニア語記文中で関接話法がもつ対応関係をもとに       6 最初と最後の頁 39-61         3 . 和話名 東京音楽大学研究紀要       1 最初と最後の頁 39-61         7 表記名 東京音楽大学研究紀要       国際共著 .         1 . 著名名 ギボ・ルシーラ       1 本名名 ギボ・ルシーラ         2 . 論文理题 日本の大学におけるボルトガル語教育・言語変種をどう扱うか・ 3 一般など 日本の大学におけるボルトガル語教育・言語変種をどう扱うか・ 44-58       5 発行年 2010年 2010年 3 一般など 2010年 2010年 3 一月 2010年 3 一月 2010年 3 一月 2010年 4 日本の本学におけるボルトガル語教育・言語変種をどう扱うか・ 5 一般のと服徒の頁 4 日本の本学におけるボルトガル語教育・言語変種をどう扱うか・ 5 一般のと服徒の頁 4 日本の本学におけるボルトガル語教育・言語変種をどう扱うか・ 5 一般のと服徒の頁 6 日本の本学におけるボルラスと『場面の表記』 2010年 5 一般のと思念の頁 6 日本の本学におけるアクセスではない、又はオープンアクセスが問題 5 一般の年 2010年 5 一般のと服徒の頁 6 日本の本学の学の表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表	A A NETT	_ 70 /= -
文とルーマニア語訳文や中で開接話法がもつ対応関係をもとに   1 素質   33-61   33-6		5.発行年
文とルーマニア語訳文化中で開接話法がもつ対応関係をもとに	ルーマニア語における「時制の一致」のあり(有標)・なし(無標)について:アガサ・クリスティの原	2020年
3 . 練送名 東京音楽大学研究紀要 6 . 最初と最後の頁 39-61 2	ウとルーフニア語訳文中で関接話注がもつ対応関係をもとに	
東京音楽大学研究記要		c = = = = = = = = = = = = = = = = = = =
接動論文の001 (デジタルオブジェクト識別子) 金銭の有無 無 コブンアクセス オーブンアクセスとしている(また、その予定である) コ際共著 - 1 著名名 ギボ・ルシーラ 第7号 5・発行年 2019年 2019年 3・開発論文の001 (デジタルオブジェクト識別子) 金銭の有無 有 オープンアクセスとしている(また、その予定である) コミ著名 権助法・名言語教育研究		6.最例と最後の貝
選載論文の201 (デジタルオブジェクト識別子) なし	東京音楽大学研究紀要	39-61
### オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 ※著名名 ギボ・ルシーラ		
## オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 ※著名名 ギボ・ルシーラ 4 ※ 第7号 2 ・		
## オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 ※著名名 ギボ・ルシーラ 4 ※ 第7号 2 ・		
1 著名名	掲載論文のDOI(テシダルオフシェクト識別子)	
コープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 著名名 ギボ・ルシーラ 2 . 論文標題 日本の大学におけるボルトガル語教育・音語変種をどう扱うか・ 3 . 雑誌名 複言語・多言語教育研究  4 . 巻 海の有無 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著名名 岸彩子 2 . 論文標題 2 . 漁文標題 3 . 雑誌名 第869 第879 第879 第879 第879 第879 第879 第879 第87	なし	<b>#</b>
1 . 著者名   1 . 本者名   2 . 競技機器   2 . 競技機器   2 . 競技機器   2 . 競技機器   3 . 機識名   4 . 整		<i></i>
1 著名名	ナープンフタトフ	
1 · 著名名	· · · · · - · ·	国际共有
ボボ・ルシーラ       第7号         2 . 論文標題 日本の大学におけるポルトガル語教育 - 言語変種をどう扱うか -       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 被言語・多言語教育研究       6 . 最初と最後の頁 44-58         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       国際共著         1 . 著名名 声彩子       4 . 巻 第40号         2 . 論文標題 大過去と『場』の共有       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 増工女子短朋大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 67-84         オープンアクセス       国際共著         1 . 著名名 岸彩子       4 . 巻 第41号         1 . 著名名 岸彩子       4 . 巻 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短朋大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1 . 信 4 . 是 第41号         4 是 第41号       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短朋大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1 . 信 4 . 是 第41号         4 是 第41号       6 . 最初と最後の頁 1 . 信 4 . 是 第41号         3 . 雑誌名 日本文子短朋大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1 . 信 4 . 是 第47日         4 是 第41号       6 . 最初と最後の頁 1 . 信 4 . 是 第47日	オーブンアクセスとしている(また、その予定である)	-
ボボ・ルシーラ       第7号         2 . 論文標題 日本の大学におけるボルトガル語教育 - 言語委種をどう扱うか -       5 . 飛行年 2019年         3 . 雑誌名 被言語・多言語教育研究       6 . 最初と最後の頁 44-58         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       国際共著         1 . 著名名 声彩子       4 . 巻 房心号         2 . 論文標題 大過去と * 場。の共有       5 . 第行年 2019年         3 . 雑誌名 均玉女子短朋大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 67-84         相数論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         1 . 著名名 岸彩子       4 . 巻 房41号         2 . 論文標題 大過去と音景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短朋大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         4 . 巻 現名と音景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短朋大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         4 . 巻 現名と子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         4 . 巻 現名を子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         日際共著       1 . 世界の有無 無		
ボボ・ルシーラ       第7号         2 . 論文標題 日本の大学におけるポルトガル語教育 - 言語変種をどう扱うか -       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 被言語・多言語教育研究       6 . 最初と最後の頁 44-58         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       国際共著         1 . 著名名 声彩子       4 . 巻 第40号         2 . 論文標題 大過去と『場』の共有       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 増工女子短朋大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 67-84         オープンアクセス       国際共著         1 . 著名名 岸彩子       4 . 巻 第41号         1 . 著名名 岸彩子       4 . 巻 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短朋大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1 . 信 4 . 是 第41号         4 是 第41号       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短朋大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1 . 信 4 . 是 第41号         4 是 第41号       6 . 最初と最後の頁 1 . 信 4 . 是 第41号         3 . 雑誌名 日本文子短朋大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1 . 信 4 . 是 第47日         4 是 第41号       6 . 最初と最後の頁 1 . 信 4 . 是 第47日	1 524	4 <del>**</del>
2. 論文標題 日本の大学におけるポルトガル語教育・音語変種をどう扱うか・ 3. 雑誌名 権言語・多言語教育研究 「概要論文の001(デジタルオブジェクト識別子)なし 1. 著者名	1.者有名	
日本の大学におけるポルトガル語教育・言語変種をどう扱うか・  3 . 雑誌名 複言語・多言語教育研究  5 . 最初と最後の頁 44-58  第 3 . 雑誌名	ギボ・ルシーラ	第7号
日本の大学におけるポルトガル語教育・言語変種をどう扱うか・  3 . 雑誌名 複言語・多言語教育研究  44-58  「表し		
日本の大学におけるポルトガル語教育・言語変種をどう扱うか・       2019年         3 . 雑誌名 複言語・多言語教育研究       6 . 最初と最後の頁 44-58         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       国際共著 7         1 . 著名名 序彩子       4 . 整 第40号         2 . 論文標題 大過去と『場』の共有       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 埼玉女子短朋大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 67-84         相類論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       重読の有無 無         1 . 著名名 序彩子       4 . 卷 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       2 . 益の有無 5 . 最初の有無 6 . 最初の有無 8 . まの力実を表しましましましましましましましましましましましましましましましましましましま	2 *A	F 76/-/-
3 ・雑誌名 複言語・多言語教育研究	4	
3 ・雑誌名 複言語・多言語教育研究	日本の大学におけるポルトガル語教育 - 言語変種をどう扱うか -	2019年
複言語・多言語教育研究  44-58  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 岸彩子 2 . 論文標題 大過去と『場』の共有 3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス  1 . 著者名 岸彩子  2 . 論文標題 大力・ブンアクセス 表し オーブンアクセス まーブンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 岸彩子 2 . 論文標題 大過去と背景知識 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 第41号 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 第41号 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 第五女子短期大学研究紀要  4 . 巻 第41号 5 . 発行年 2020年 5 . 発行表	A TOTAL CONTENT OF THE CONTENT OF TH	==
横言語・多言語教育研究  44-58  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 岸彩子 2 . 論文標題 大過去と『場』の共有 3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 岸彩子 2 . 論文標題 大過去と青泉知識 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 オーブンアクセス 国際共著 - 1 . 著者名 東彩子 2 . 論文標題 大過去と青泉知識 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 切ってアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 東彩子 2 . 論文標題 大過去と背景知識 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 切ってアクセス 国際共著 - 2 . 論文標題 大過去と背景知識 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 切ってアクセス 国際共著 カーブンアクセス	2 164 7	c = +n   = # - =
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 岸彩子 2 . 論文標題 大過去と『場』の共有 3 . 雑誌名 均玉女子短期大学研究紀要  【掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 岸彩子 2 . 論文標題 大過去と『景知論 4 . 巻 第41号 2 . 論文標題 大過去と『景知論 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 均玉女子短期大学研究紀要  4 . 巻 第41号 2 . 論文標題 大過去と『景知論 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 均玉女子短期大学研究紀要  1 . 著者名 岸彩子 2 . 論文標題 大過去と『景知論 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 均玉女子短期大学研究紀要  「		6.最例と最後の貝
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著名名 岸彩子 2 . 論文標題 大過去と『場』の共有 3 . 雑誌名 均玉女子短期大学研究紀要  【報文子短期大学研究紀要  「おびンアクセス オーブンアクセス 」 国際共著  オーブンアクセス  国際共著  1 . 著名名 岸彩子 2 . 論文標題 大力・ブンアクセス  国際共著  1 . 著名名 東彩子 4 . 巻 第41号 2 . 論文標題 大過去と『景知識 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 均玉女子短期大学研究紀要  4 . 巻 第41号 2 . 論文標題 大過去と背景知識 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 均玉女子短期大学研究紀要  「おびと最後の頁 1-16  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし カーブンアクセス  国際共著  カーブンアクセス  国際共著	複言語・多言語教育研究	44-58
なし 有		1. 55
### おいます   ### おいます   ### おいます   ### おいます   ### おいます   ####   ####   ####   ####   ####   ####   ####   ####   ####   ####   ####   ####   #####   #####   #####   ######		
なし 有 オープンアクセス 国際共著 1 著名名		
なし 有 オープンアクセス 国際共著 - 1 著者名	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス       国際共著         1 . 著者名 岸彩子       4 . 巻 第40号         2 . 論文標題 大過去と『場』の共有       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 均玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 67-84         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オープンアクセス       国際共著         1 . 著者名 岸彩子       4 . 巻 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 均玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1. 著者名 岸彩子       4. 巻 第40号         2. 論文標題 大過去と『場』の共有       5. 発行年 2019年         3. 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6. 最初と最後の頁 67-84         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       国際共著 第41号         1. 著者名 岸彩子       4. 巻 第41号         2. 論文標題 大過去と背景知識       5. 発行年 2020年         3. 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6. 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 なし         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	40	19
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1. 著者名 岸彩子       4. 巻 第40号         2. 論文標題 大過去と『場』の共有       5. 発行年 2019年         3. 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6. 最初と最後の頁 67-84         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         1. 著者名 岸彩子       4. 巻 第41号         2. 論文標題 大過去と背景知識       5. 発行年 2020年         3. 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6. 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		
1 . 著者名	オープンアクセス	国際共著
1 . 著者名	オープンアクセスでけない Vけオープンアクセスが困難	_
ド彩子       第40号         2 . 論文標題 大過去と『場』の共有       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 67-84         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オープンアクセス 上の大過去と可愛知識       4 . 巻 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	カープラブラとれてはない、人はカープラブラとハガ田梨	_
ド彩子       第40号         2 . 論文標題 大過去と『場』の共有       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 67-84         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オープンアクセス 上の大過去と可愛知識       4 . 巻 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		
ド彩子       第40号         2 . 論文標題 大過去と『場』の共有       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 67-84         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オープンアクセス 上の大過去と可愛知識       4 . 巻 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	1.著者名	4 . 巻
2 . 論文標題 大過去と『場』の共有       5 . 発行年 2019年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 67-84         掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オープンアクセス 1 . 著者名 岸彩子       1 . 著者名 岸彩子         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文の001(デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 なし         オープンアクセス       国際共著		
大過去と『場』の共有       2019年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 67-84         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無 無         オーブンアクセス 大一ブンアクセスとしている(また、その予定である)       国際共著 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無 無         オーブンアクセス       国際共著	<b>芹杉</b> 丁	**************************************
大過去と『場』の共有       2019年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 67-84         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オーブンアクセスとしている(また、その予定である)       国際共著 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オーブンアクセス       国際共著		
大過去と『場』の共有       2019年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 67-84         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オーブンアクセス 大一ブンアクセスとしている(また、その予定である)       国際共著 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オーブンアクセス       国際共著	2 . 論文標題	5 . 発行年
3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁 67-84         埼玉女子短期大学研究紀要       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著 -         オープンアクセスとしている(また、その予定である)       4 . 巻 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		
埼玉女子短期大学研究紀要     67-84       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし     重読の有無無無       オープンアクセス     国際共著・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	八旭公と「場」の共有	20194
埼玉女子短期大学研究紀要     67-84       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし     重読の有無無       オープンアクセス     国際共著 -       1.著者名		
埼玉女子短期大学研究紀要     67-84       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし     重読の有無無       オープンアクセス     国際共著 -       1.著者名	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス コ際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) - 4 . 巻 第41号 2 . 論文標題 大過去と背景知識 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要 「も、最初と最後の頁 1-16 「最初と最後の頁 1-16	** *** * *	
# 日際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 日際共著 - 1 . 著者名 岸彩子 名 4 . 巻 第41号 名 . 競行年 大過去と背景知識 5 . 発行年 2020年 名 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要 6 . 最初と最後の頁 1-16 相談	向上 <b>又</b> 」这别八十则几心女	07-04
# 日際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) 日		
### (本一プンアクセス (本の子定である)		<u>                                       </u>
### (本一プンアクセス (本の子定である)	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス     国際共著       1 . 著者名 岸彩子     4 . 巻 第41号       2 . 論文標題 大過去と背景知識     5 . 発行年 2020年       3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要     6 . 最初と最後の頁 1-16       掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし     査読の有無 無       オープンアクセス     国際共著	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
オープンアクセスとしている(また、その予定である)       -         1 . 著者名 岸彩子       4 . 巻 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	なし	<b>#</b>
オープンアクセスとしている(また、その予定である)       -         1 . 著者名 岸彩子       4 . 巻 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		
オープンアクセスとしている(また、その予定である)       -         1 . 著者名 岸彩子       4 . 巻 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	オープンアクセス	国際共著
1 . 著者名 岸彩子       4 . 巻 第41号         2 . 論文標題 大過去と背景知識       5 . 発行年 2020年         3 . 雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6 . 最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		
岸彩子第41号2.論文標題 大過去と背景知識5.発行年 2020年3.雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要6.最初と最後の頁 1-16掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	オーノノアクセ人としている(また、ての下走である)	-
岸彩子第41号2.論文標題 大過去と背景知識5.発行年 2020年3.雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要6.最初と最後の頁 1-16掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		
岸彩子第41号2.論文標題 大過去と背景知識5.発行年 2020年3.雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要6.最初と最後の頁 1-16掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	1 莱老名	<b>Δ</b> 券
2.論文標題 大過去と背景知識       5.発行年 2020年         3.雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要       6.最初と最後の頁 1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		_
大過去と背景知識2020年3.雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要6.最初と最後の頁 1-16掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	<b>F</b> 彩于	<b>弟41</b> 亏
大過去と背景知識2020年3.雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要6.最初と最後の頁 1-16掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		
大過去と背景知識2020年3.雑誌名 埼玉女子短期大学研究紀要6.最初と最後の頁 1-16掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	2. 绘文極頭	5 発行任
3.雑誌名       6.最初と最後の頁         埼玉女子短期大学研究紀要       1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       無         オープンアクセス       国際共著		
埼玉女子短期大学研究紀要       1-16         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       無         オープンアクセス       国際共著	大過去と背景知識 (大) 大過去と背景知識 (大) 大過去と背景知識 (大) 大 (大) (大)	2020年
埼玉女子短期大学研究紀要       1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       無         オープンアクセス       国際共著		
埼玉女子短期大学研究紀要       1-16         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       無         オープンアクセス       国際共著	3. 妹羊夕	6 是初レ早悠の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無		
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 なし 無	埼玉女子短期大学研究紀要	1-16
なし 無		
# また		
# また		
# また	掲載論又のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
オープンアクセス 国際共著		
		<del>711</del>
	オープンアクセス	国際共著
	オープンアクセスとしている(また、その予定である)	_

1.著者名山村ひろみ	4 . 巻 41
2.論文標題 スペイン語の丁寧表現 - 「丁寧の線過去」と「丁寧の過去未来」をめぐって -	5 . 発行年 2018年
3.雑誌名 言語文化論究	6.最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1.著者名 山村ひろみ	4.巻 <sup>54</sup>
2.論文標題 日本語母語話者にとっての「過去の出来事」・「過去の状況」とスペイン語の「点過去」・「線過去」の 使い分け	5 . 発行年 2019年
3.雑誌名 言語科学	6.最初と最後の頁 37-54
   掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)   なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1.著者名 渡邊淳也	4 . 巻 51
2.論文標題 フランス語の語彙の操作性とアフォーダンス	5 . 発行年 2018年
3.雑誌名 ロマンス語研究	6.最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著
1. 著者名 渡邊淳也	4.巻 33
2.論文標題 フランス語大過去形の特徴的用法について	5 . 発行年 2018年
3.雑誌名 筑波大学フランス語・フランス文学論集	6.最初と最後の頁 81-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著

1.著者名	4 . 巻
和田尚明	18 (2)
2.論文標題	5.発行年
2 · 調又标題 新しい学説はどのように外国語教育に貢献するのかーモダリティ・心的態度・間接発話行為の日英の違い を言語使用の三層モデルから説明するー	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
日本語文法	28-44
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4 . 巻
Naoaki Wada	0
2 . 論文標題	5 . 発行年
C-gravitation and the grammaticalization degree of "present progressives" in English, French, and Dutch	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
New Trends in Grammaticalization and Language Change	207-230
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	 査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	該当する
1.著者名	4 . 巻
岸彩子	51
2.論文標題	5.発行年
フランス語の半過去と日本語のテイル telicな意味の半過去を巡って	2018年
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
ロマンス語研究	75-84
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1.著者名	4 . 巻
Lucila Gibo	51
2.論文標題	5 . 発行年
A alternancia entre os preteritos perfeito, mais-que-perfeito simples e mais-que-perfeito composto no portugues escrito: analise dos fatores morfossintaticos condicionantes	2018年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
ロマンス語研究	65-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
なし	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	- -

〔学会発表〕 計33件(うち招待講演 5件/うち国際学会 5件)
1.発表者名 渡邊淳也
2.発表標題 L. GOSSELIN (2018) "Le conditionnel temporel subjectif et la possibilite prospective" の論評
3 . 学会等名 第 7 回TAME研究会
4 . 発表年 2020年
1.発表者名 渡邊淳也
2 . 発表標題 フランス語の接続法とポリフォニー
3.学会等名 第9回TAME研究会
4.発表年 2021年
1.発表者名 小熊和郎
2.発表標題 willの解釈と対応するフランス語:事行の時空定位と主体のポジション
3.学会等名 第9回TAME研究会
4.発表年
2021年
2021年  1 . 発表者名 和田尚明
2021年         1.発表者名 和田尚明         2.発表標題 英独語の単純現在形の「未来時指示」について
2021年         1.発表者名         和田尚明         2.発表標題         英独語の単純現在形の「未来時指示」について         3.学会等名         第8回TAME研究会
2021年         1.発表者名         和田尚明         2.発表標題         英独語の単純現在形の「未来時指示」について         3.学会等名

1.発表者名
大森洋子
2. 発表標題
La expresion de la futuridad en espanol
3 WAMA
3 . 学会等名 東京スペイン語学研究会
4 . 発表年
2020年
1.発表者名
ギボ ルシーラ
2.発表標題 ポルトガル語のfuture enjetemiceについて
ポルトガル語のfuturo epistemicoについて
3.学会等名
第 7 回TAME研究会
4 . 発表年 2020年
2020—
1.発表者名
ギボ ルシーラ
2.発表標題
2 . 光权标题 Analise dos valores modais das formas do futuro: diferencas entre PE e PB
3.学会等名
日本ポルトガル・ブラジル学会旧関西部会
4.発表年
2021年
1 . 発表者名 山村ひろみ
ш110 эм
2.発表標題
スペイン語の未来と過去未来 - その機能的異同について
3.学会等名
日本フランス語学会2019年度シンポジウム「ポルトガル語,スペイン語,フランス語の時制と叙法の対照・比較」(招待講演)
4.発表年
2019年

1.発表者名
山村ひろみ
2 . 発表標題
再考:スペイン語の「未来」の諸用法と「未来」の機能 - スペイン語「未来」の統一的機能を求めて -
3. 学会等名
日本スペイン語学セミナー
4
4 . 発表年
2019年
1
1.発表者名 渡邊淳也
<u>反</u> 選好也
2.発表標題
フランス語大過去形の特徴的用法について
3 . 学会等名
日本フランス語学会第326回例会
4.発表年
2019年
1. 発表者名
渡邊淳也
2、文字 + 新田
2. 発表標題
フランス語の単純未来形と条件法:叙法的対立とその源泉
3 . 学会等名
」 : チスサロ 日本フランス語学会2019年度シンポジウム「ポルトガル語,スペイン語,フランス語の時制と叙法の対照・比較」(招待講演)
ロテノフスの旧子以2010年及フスがスプは「MANT MANT MANT MANT MANT MANT MANT MANT
4.発表年
2019年
1
1.発表者名
渡邊淳也
NXQIT C
2 . 発表標題
フランス語の語彙の抽象性・操作性と日本語の語彙の具象性・指示性
3. 学会等名
言語系学会連合・日本英語学会共催2019年度公開シンポジウム 「ことばは現実をどう捉えるか ことばの対照研究のおもしろさ 」(招
待講演)
4. 発表年
2019年

1.発表者名
Naoaki Wada
2. 発表標題
On the so-called volitional use of will : Semantic or pragmatic or both ?
3. 学会等名
The 15th International Cognitive Linguistic Conference(国際学会)
4 . 発表年 2019年
1 . 発表者名 Haruka Shimura, Naoaki Wada, and Hiroko Wakamatsu
2 . 発表標題 The indefinite use of the Present Perfect Progressive and its emotional effects
3 . 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistic Conference(国際学会)
4 . 発表年
2019年
1.発表者名
鈴木信五
2 . 発表標題
2 : 光衣標題 イタリア語条件法がもつ他者性に推量がオーバーラップするとき
3.学会等名
3.字云寺名 第 4 回TAME研究会
4.発表年
2019年
1 . 発表者名
ギボ・ルシーラ
2.発表標題
ポルトガル語の未来と過去未来:推量及び伝聞マーカー
3.学会等名
日本フランス語学会2019年度シンポジウム「ポルトガル語,スペイン語,フランス語の時制と叙法の対照・比較」(招待講演)
4.発表年
2019年

1.発表者名
小熊和郎
2 . 発表標題
AgnesCelle (2007)(2008)の紹介と考察:発話者の non-committementという概念に基づく条件法の統一的分析 - 二つのパラタックス構文を中心に -
The second secon
3. 学会等名
第 4 回TAME研究会
2019年
1. 発表者名
小熊和郎
2 . 発表標題
P. Dendale, 2001(推測未来と「~に違いない」のdevoirはどのように違うのか)紹介と考察
3.学会等名
第6回TAME研究会
4 . 発表年 2019年
20194
1.発表者名
小熊和郎
イマ(今)とは何か:同一性と他性(差異性)
TAGE
4.発表年
2020年
1.発表者名
「・元代音音    モニカ・ハムチュク
2 . 宠衣標題   A brief overview of Romanian tenses and moods that can express evidentiality, with corpus-based examples
7. 2.10. Cro. viol. or nomalital condoc and moods that can express evidentiality, with corpus-based examples
2
3.学会等名 第 6 回TME研究会
ᅔᄋᆸᇅᄤᄓᄤᄉᄢᄉᄌ
4.発表年
2019年

1 . 発表者名 モニカ・ハムチュク
2 . 発表標題 The Romanian conditional and how it expresses evidentiality- with corpus-based examples
3.学会等名 第7回TAME研究会
4. 発表年 2019年
1.発表者名 岸彩子
2.発表標題 大過去と結果状態
3.学会等名 日本フランス語フランス文学会関西支部会
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 岸彩子
2 . 発表標題 フランス語の大過去 ディスクールの大過去を中心に
3.学会等名 科研費(基盤研究(C)課題番号17K02804)講演会(招待講演)
4 . 発表年 2019年
1.発表者名 山村ひろみ
2. 発表標題 スペイン語とフランス語の cond, condpc, fut, futpcの記述的対照
3.学会等名 TAME研究会
4.発表年 2019年

1.発表者名 山村ひろみ
<b>単行ひらか</b>
2 . 発表標題 日本語母語話者にとっての「過去の出来事」「過去の状況」と点過去と線過去の使い分け
日本品は品品自にとうでの一般会の日本事」「過去の状況」と思過会と誘題会の使い力力
3 . 学会等名
日本スペイン語学セミナー(SELE2018)
4 . 発表年
2018年
1. 発表者名
Jun-ya WATANABE
2.発表標題
Gerondif no-coreferntiel et les modes de cognition
3.学会等名
Chronos 13 (国際学会)
4.発表年
2018年
1.発表者名
渡邊淳也
2 . 発表標題
フランス語の半過去形と叙想的時制・叙想的アスペクト再論
3 . 学会等名
東京フランス語学研究会第39回研究会
4 . 発表年   2018年
2010—
1.発表者名
Naoaki Wada
2.発表標題
Temporal phenomena in first-person stories: A contrastive study of English and Japanese from a perspective of the three-tier
model of language use
Chronos13(国際学会)
4.発表年 2018年
2018年

1.発表者名
Naoaki Wada
2.発表標題
How to express (indirect) speech acts in English and Japanese: A perspective from the three-tier model of language use
3.学会等名
3 . 子云守石   The 5th International Conference of the International Society for the Linguistics of English (ISLE5)(国際学会)
The Str International Conference of the International Society for the Linguistics of English (ISLES) (国际子云)
4.発表年
4 · 光农中   2018年
2010年
1.発表者名
小熊和郎
2.発表標題
A propos du marqueur UCHI japonais : subjectivite et alterite
A propos du marqueur dont japonars . Subjectivité et arterité
Journee d'etudes sur l'alterite
Souther Control of the Control of th
2018年
2010 1
1.発表者名
小熊和郎
3 AVIAN
2.発表標題
フランス語前未来形の過去推測用法と見切り用法、条件法の推測用法の制約について
3.学会等名
TAME研究会
4.発表年
2019年
1.発表者名
岸彩子
2 7V + 1 = 0 =
2.発表標題
大過去と『場』の共有
」 3.学会等名
日本フランス語フランス文学会関西支部会
<u> </u>
4.発表年 2019年
2018年

1.発表者名	
Lucila Gibo	
2.発表標題	
2.光衣標題   ポルトガル語の条件法と証拠性	
TAME研究会	
4.発表年	
2019年	
[図書] 計5件 [1 英名	4
□ 1 . 著者名 マリ゠ジョゼ・ダルベラ゠ステファナッジ著、渡邊 淳也訳	4 . 発行年 2020年
2.出版社	 5.総ページ数
白水社	156
コルシカ語	
1.著者名	4 . 発行年
Monica Hamciuc	2021年
2.出版社	5. 総ページ数
Editura Sf. Ioan Nicolae	118
3 . 書名	
日羅オノマトペ辞典 Dictionar onomatopee japonez-roman	
	<u> </u>
1 . 著者名	4 . 発行年
山村ひろみ	2019年
2 山岭5 <sup>2</sup> 4	□ 4分 A° ご ※h
2.出版社 白水社	5 . 総ページ数 159
3 . 書名	
3 . 青名   解説がくわしいスペイン語の作文 [ 改訂版 ]	
and the second of the second o	
	•

1.著者名 和田尚明	4 . 発行年 2019年
2 . 出版社 開拓者	5.総ページ数 444
3.書名 The Grammar of Future Expressions in English	
1.著者名 渡邊淳也	4 . 発行年 2018年
2.出版社 白水社	5.総ページ数 180
3.書名 叙法の謎を解く	

## 〔産業財産権〕

〔その他〕

\_

6. 研究組織

6	.研究組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	渡邊 淳也	東京大学・大学院総合文化研究科・教授	
研究分担者	(Watanabe Jun-ya)		
	(20349210)	(12601)	
	GIBO LUCILA	上智大学・外国語学部・准教授	
研究分担者	(Gibo Lucila)		
	(30737218)	(32621)	
研究分担者	和田 尚明 (Naoaki Wada)	筑波大学・人文社会系・教授	
	(40282264)	(12102)	

6.研究組織(つづき)

6	. 研究組織(つづき)		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	鈴木 信五	東京音楽大学・音楽学部・客員教授	
研究分担者	(Suzuki Shingo)		
	(40220025)	(22646)	
	(40338835)	(32646)	
研究分担者	大森 洋子 (Omori Hiroko)	明治学院大学・教養教育センター・教授	
	(00000077)	(00000)	
	(60233277)	(32683)	
研究分担者	小熊 和郎 (Oguma Kazuro)	西南学院大学・公・私立大学の部局等・名誉教授	
	(70169259)	(37105)	
-	HAMCIUC MONICA	鹿児島大学・総合科学域総合教育学系・准教授	
研究分担者	(Hamciuc Monica)		
	(70721124)	(17701)	
	黒沢 直俊	東京外国語大学・その他部局等・名誉教授	
研究分担者	(Kurosawa Naotoshi)		
	(80195586)	(12603)	
	岸 彩子	埼玉女子短期大学・その他部局等・准教授	
研究分担者	(Kishi Ayako)		
	(80749531)	(42418)	
-	藤田 健	北海道大学・文学研究科・教授	  削除:2019年1月10日
研究分担者	мян ше (Takeshi Fujita)	TAIR TAIR	
	(50292074)	(10101)	
	(00202017)	1	l

## 7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
Videoconferencia: Futuro y evidencialidad	2021年~2021年

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------